

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-153	高等学校	数学	数学 A	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数 A 713	高等学校 数学A		

## 1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第 2 条に示す教育の目標を達成するために、以下の 4 つを基本方針に据え、確実な数学的教養の育成を目指した。

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1 | スムーズな展開で確実な知識、技能を身に付けることができる。 |
| 2 | 思考力、判断力、表現力が育成できる。            |
| 3 | 生徒が自ら学びを深めるための工夫がある。          |
| 4 | 進学する生徒にとっても十分な数学的教養が身に付けられる。  |

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確率の考え方が検索エンジンの効率化や迷惑メールの選別など日常生活で活かされている事例を取り上げた（第 2 号）。</li> <li>・教科書で学ぶ多面体が化学の研究でも活かされていることを取り上げた（第 1 号）。</li> <li>・ユークリッドの著書『原論』を取り上げ、数学が歩んだ歴史に興味をもてるようにした（第 5 号）。</li> </ul>	前見返し左下  前見返し右上  前見返し右下
第1章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確率が考えられるに至った背景を取り上げ、確率が身の回りの事柄に関連していることがわかるようにした(第 1 号, 第 2 号)。</li> <li>・最短経路の問題を取り上げ、場合の数を求める考え方が、実生活にも利用できることがわかるようにした(第 2 号)。</li> <li>・機械の部品に関して、不良品が発生した原因を考察する問題を取り上げ、職業や日常生活との関連を重視する態度を養う機会を設けた(第 2 号)。</li> <li>・実際に生徒が協力して行えるようなゲームと確率の関係について取り上げた(第 3 号)。</li> </ul>	13ページ  39ページ  64ページ  65ページ

第2章 図形の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学の身近な活用例として、気象レーダーを守るドームに図形の性質が利用されていることを取り上げた（第2号、第4号）。</li> <li>平面図形に関して成り立つ定理について、その証明をできる限り取り上げるようにした（第1号）。</li> <li>江戸時代の日本では、数学の問題や解法をかいた額が、神社や寺に奉納されていたことに触れ、自国における数学の発展について興味をもてるようにした（第5号）。</li> </ul>	73ページ 75～101ページ 121ページ
第3章 数学と人間の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の生活に欠くことのできない暗号理論の基礎が、素数によって支えられていることを、数学の活用例として紹介した（第2号）。</li> <li>日常生活で頻繁に利用しているバーコードにも約数と倍数の性質が利用されていることを取り上げた（第2号）。</li> <li>江戸時代の数学書『塵劫記』にある「百五減算」、「油分け算」について取り上げ、和算の考え方にも触れられるようにした（第5号）。</li> </ul>	125, 131ページ 126ページ 138, 141, 149ページ
総合問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>最短経路の問題を取り上げ、場合の数を求める考え方が、実生活にも利用できることがわかるようにした（第2号）。</li> <li>確率を利用して明日、明後日の天気を考察する例を取り上げた（第4号）。</li> <li>ゲームの必勝法を考える問題を取り上げた（第5号）</li> </ul>	170ページ 170ページ 172ページ
答と略解	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲のある生徒には自学自習もできるよう、問題・章末問題の答と略解を掲載した（第2号）。</li> </ul>	173～176ページ
身に付けたい表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>よく利用される記号の由来や語源などを示すことで、より深く数学の知識を得られるようにした（第1号）。</li> </ul>	177～178ページ
さくいん	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら振り返って学習もできるようさくいんを入れた（第2号）。</li> </ul>	179～180ページ
後見返し	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校で学んだ作図の基本事項をまとめ、わからないことは自分で調べられるようにした（第2号）。</li> <li>本書で学んだ平面図形の定理をまとめ、わからないことは自分で調べられるようにした（第2号）。</li> </ul>	後見返し左上 後見返し左下～ 後見返し右

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

「1. 編修の基本方針」にのっとり、以下の点に特に意を用いた。

#### 1 スムーズな展開で確実な知識，技能を身に付けることができる。

学習がスムーズに進む「展開の工夫」がある。

##### ●準備 (7～12 ページ)

第1章「場合の数と確率」を学習するのに必要な数学 I の「集合」の内容を準備として巻頭に掲載した。

##### ●三角形の外心・内心・重心 (78～82 ページ)

まずは、証明の易しい外心，内心を先に取り上げることで、取り組みやすくした。

##### ●図形の性質 (74～104 ページ)

定理を示した直後には、その定理を使って値を求める基本的な問題を配置することで、定理が定着するようにした。

学習がスムーズに進む「題材の工夫」がある。

##### ●場合の数と確率 (18, 20, 39 ページなど)

1 つの題材を繰り返し使って展開することで、設問の設定がスムーズに理解できるようにした。

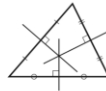
##### ●図形の性質 (74～118 ページ)

本文で扱う練習は、値を求める基本的な問題を中心とし、授業が進めやすいようにした。

**2 三角形の外心・内心・重心**  
 三角形において、3 辺の垂直二等分線、3 つの内角の二等分線について調べてみよう。さらに、頂点とそれに向かい合う辺の中点を結ぶ 3 本の線分についても調べてみよう。それらには興味深い性質がある。ここでは、それらの性質について学ぶことにしよう。

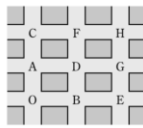
**A 三角形の外心**  
 三角形の辺の垂直二等分線について、次の定理が成り立つ。

**三角形の辺の垂直二等分線**  
**定理 3** 三角形の 3 辺の垂直二等分線は 1 点で交わる。



(78 ページ)

**A 樹形図**  
 右の図のように道路がある町で、交差点 O から交差点 H まで遠回りしないで行く最短の道順が何通りあるかを調べてみよう。

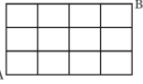


条件を満たす道順を、交差点を示す文字の順にすべて書き出してみると

**B 和の法則**  
 18 ページの道順の例では、A を通る道順と B を通る道順がある。これらに重複はなく、次の関係が成り立っている。

道順の総数 = A を通る道順 + B を通る道順  
 $6 \text{ 通り} = 3 \text{ 通り} + 3 \text{ 通り}$

**応用問題 9** 右の図は、ある地域の道を直線で示したものである。交差点 A から交差点 B まで遠回りをしていないで行く最短の道順は、何通りあるか。



(18, 20, 39 ページ：遠回りしない道順)

側注・脚注に計算過程や補足説明を入れ、本文がスムーズに読めるようにしている。

一般に、 $n$  個から  $r$  個取る組合せの総数は、 $n$  個から  $(n-r)$  個取る組合せの総数に等しい。すなわち、次の等式が成り立つ。

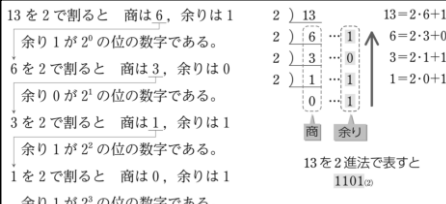
**${}_nC_r$  の性質**

${}_nC_r = {}_nC_{n-r}$        ${}_nC_n = {}_nC_0$   
 $\Delta + \square = \bigcirc$

(34 ページ)

13 を 2 で割ると 商は 6, 余りは 1  
 余り 1 が  $2^0$  の位の数字である。  
 $6$  を 2 で割ると 商は 3, 余りは 0  
 余り 0 が  $2^1$  の位の数字である。  
 $3$  を 2 で割ると 商は 1, 余りは 1  
 余り 1 が  $2^2$  の位の数字である。  
 $1$  を 2 で割ると 商は 0, 余りは 1  
 余り 1 が  $2^3$  の位の数字である。

13 を 2 進法で表すと  
 $1101_{(2)}$



(153 ページ)

#### 2 思考力，判断力，表現力が育成できる。

考えを深める問いを適切な場面で設定している。

##### ●構成要素「深める」

新構成要素「深める」として、別の方法で考えてみる、理由を説明するなど、本質的な理解に繋がる問いを適切な場面に設定した。

脚注として掲載することで、本文と識別しやすいレイアウトになっており、生徒の理解度等によって、適切なタイミングで取り上げることができる。

**深める** 例 13 について、次の考え方は誤りである。その理由を説明してみよう。  
 さいころの目の和は 2 から 12 までの 11 通りであるから、目の和が 5 になる確率は  $\frac{1}{11}$  である。

(46 ページ)

**思考力, 判断力, 表現力を育成するための素材がある。**

● **身に付けたい表現**

巻末によく利用する表現や記号について説明するページを設けた。

● **節末問題**

節末問題では, その節の復習問題に加えて, 思考力等を要する問題も取り上げている。節で学んだ内容を活用して解決できる。

● **総合問題**

巻末には, 思考力等を問う総合的な問題を取り上げている。「長文で構成された問題」「日常の事象や社会の事象を題材にした問題」など, 章ごとに問題を用意しており, 各章の学習を終えた段階で取り組むこともできる。


**問題**

6 空間内の直線  $l, m, n$  や, 平面  $\alpha, \beta$  について, 次の記述は正しいか。正しくない場合, その理由も述べよ。 → p.112-115


(1)  $l \parallel m$  で,  $m$  と  $n$  が交わるならば,  $l$  と  $n$  は交わる。  
 (2)  $l \perp \alpha, m \perp \alpha$  ならば,  $l \parallel m$  である。  
 (3)  $l$  が  $\alpha$  上にあるとき,  $l \perp \beta$  ならば,  $\alpha \perp \beta$  である。

7 右の図において, 3つの線分  $OA, OB, OC$  は, それぞれが直角に交わっている。 $O$  から平面  $ABC$  に下ろした垂線を  $OH$  とするとき, 次のことを示せ。 → p.114

(1)  $OA \perp BC, OH \perp BC$   
 (2)  $AH \perp BC$




8 右の図の立体は, 1辺の長さが2の立方体から各辺の中点を通る平面で8つのかどを切り取った多面体である。この多面体の表面積, 体積を求めよ。 → p.118, 119



9 正二十面体の1つの頂点に集まる5つの辺の中点は同じ平面上にある。正二十面体から1つの頂点に集まる5つの辺の中点を通る平面ですべてのかどを切り取った多面体  $P$  について, 次の問いに答えよ。

(1)  $P$  はどのような多面体か。次の①-③から選べ。



(2)  $P$  の面の数  $f$ , 辺の数  $e$ , 頂点の数  $v$  を, それぞれ求めよ。

(122ページ)

**3 生徒が自ら学びを深めるための工夫がある。**

生徒が主体的に学習に取り組むための工夫がある。

● **構成要素「深める」** → **2**

● **コラム**

教科書本文で学んだ内容に関連する以下の4種類のコラムを掲載した。

- ・ Discover (発見)
- ・ Think (考える)
- ・ Event (身近な事象)
- ・ History (数学史)

生徒にも読みやすいよう平易な文章にしている。

● **ICTの活用 Linkマーク**

教科書の内容に関連した参考資料, 理解を助けるアニメーション, 生徒自らが考察するためのツールなどのデジタルコンテンツを用意しており, インターネットに接続することで活用できる。紙面では表現が難しい動きをともなうコンテンツもあり, 生徒がこれらに触れることで理解を深めることができる。

**Think**  
考える

**コラム**  
**完全順列**

AさんとBさんが次のような問題について話しています。

**問題** 1, 2, 3, 4の4個の数字をすべて並べる。このとき1が1番目に並ばないなど, それぞれの数字の並ぶ順番がその数字とすべて異なるような並べ方の総数を求めよ。

A: 先生が問題の条件を満たすような順列を完全順列と説明していたね。だから, 問題は4個の完全順列の総数を求める問題ということだね。

B: 完全順列は, たとえば, 私たちのクラスで席替えをするときに, 全員がもとの席から移動するような場合, とも考えることができるのかな。

(31ページ)

**Link**  
資料

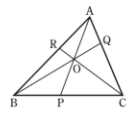
**Link**  
イメージ

**Link**  
考察

**Link**  
定理

**チェバの定理**

**定理6**  $\triangle ABC$  の内部に点  $O$  がある。頂点  $A, B, C$  と  $O$  を結ぶ直線が向かい合う辺と, それぞれ点  $P, Q, R$  で交わるとき

$$\frac{BP}{PC} \cdot \frac{CQ}{QA} \cdot \frac{AR}{RB} = 1$$


(84ページ)

**数学の面白さ, 数学のよさ, 数学の奥深さが実感できる。**

● **章扉**

章扉では, その章の内容に関連する日常の事象や数学者などを紹介し, その章を学ぶ動機づけになるようにしている。

● **見返し**

見返しでは, カラー写真とともに, 数学の実社会への応用などを紹介している。

確率の考え方は, パスカルとフェルマの手紙のやり取りから発展したと言われる。手紙の中で議論されたのは, 次のような問題であった。

賞金がもらえるゲームを途中で中止しなければならなくなったとき, この賞金をどのように分配するか。

2人はゲーム参加者の勝つ可能性の割合に応じて, 賞金を分配すればよいと考えた。

(13ページ)

#### 4 進学する生徒にとっても十分な数学的教養が身に付けられる。

やや程度の高い問題でも、その後の学習や進学後の学習に必要なものは、本文でしっかりと扱うようにした。

##### ● 組分けの総数 (36 ページ)

組合せの考え方の応用として、例題で取り上げた。その解説で考え方を丁寧に説明し、更に発展的な問題にも取り組めるようにした。

##### ● 数直線上の動点が原点に戻る確率 (59 ページ)

反復試行の中でも代表的で重要な問題を、例題で取り上げた。題意を理解し、自分で変数を設定し立式する能力が育成できるようにした。

##### ● 正八面体、正四面体 (118 ページ)

正八面体、正四面体に関する内容を取り上げ、空間図形の性質を論理的に考察し表現する能力が育成できるようにした。

##### ● 1 次不定方程式 (142~149 ページ)

ユークリッドの互除法、1 次不定方程式について、段階を追って扱った。また、解説図を用いて視覚的に理解を助ける工夫をした。

本文外の「研究」や「発展」を学ぶことで、更に充実できるようにした。

##### ● 原因の確率 (64 ページ)

条件付き確率を発展させ、いわゆる原因の確率(事後確率)を求める問題についても扱った。

##### ● 正多面体の体積 (119 ページ)

本文で取り上げた正八面体、正四面体の考察に加えて、その体積についても取り上げた。

##### ● 合同式 (166, 167 ページ)

合同式の計算方法や性質について、本文の内容とも関連させて取り上げた。

#### 5 ユニバーサルデザインに関する取り組み

##### ● 色づかい

色覚の個人差を問わず多くの人に見やすいようカラーユニバーサルデザインに配慮した。

##### ● 文字

本文等に、多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字(ユニバーサルデザインフォント)を使用した。横画が通常のフォントより太く、視認性・可読性に優れている。

8 6人を次のように分けるとき、分け方は何通りあるか。  
 (1) A, B, Cの3つの部屋に、2人ずつ分ける。  
 (2) 2人ずつの3つの組に分ける。

考え方 (2)は、(1)でA, B, Cの区別がない場合である。たとえば、1つの組分け{a, b}, {c, d}, {e, f}において、この3つの組にA, B, Cの名前をつけるるとすると、3!通りのつけ方がある。よって、(2)の総数を求めるには、(1)の総数を3!で割ればよい。

	{a, b}	{c, d}	{e, f}
3! 通り	A	B	C
	A	C	B
	B	C	A
	C	A	B
	C	B	A

(36ページ)

9 391, 299の最大公約数を求める。

① $391 = 299 \cdot 1 + 92$	① (391と299の最大公約数) = (299と92の最大公約数)
② $299 = 92 \cdot 3 + 23$	② (299と92の最大公約数) = (92と23の最大公約数)
③ $92 = 23 \cdot 4 + 0$	③ (92と23の最大公約数) = 23

よって、391と299の最大公約数は23

(143ページ)

研究 原因の確率

条件付き確率の考え方を利用して、次のような問題について考えよう。

例 1 ある製品を製造する機械A, Bがあり、不良品の発生する割合は、Aでは0.1%, Bでは0.2%であるという。Aからの製品とBからの製品が3:1の割合で大量に混ざっている中から1個を選び出すとき、それが不良品であるという事象をEとする。

(1) 確率  $P(E)$  を求めよ。  
 (2) 事象Eが起こった原因が、機械Aにある確率を求めよ。

(64ページ)

補足 合同式

140ページの例8では、2つの整数a, bを7で割ったときの余りが、それぞれ5, 4であるとき、 $a+b$ ,  $ab$ を7で割ったときの余りは、それぞれ5+4,  $5 \cdot 4$ を7で割ったときの余りに等しかった。

整数をある正の整数で割った余りについて考えると、次の「合同式」を用いると、表記が簡潔になって、見通しよくなる。

(166ページ)

通常のフォント

るような実数

ユニバーサルデザインフォント

るような実数

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-153	高等学校	数学	数学 A	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104数研	数 A 713	高等学校 数学A		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色


### 1 一般的な留意点

- 1 数学的教養や学習態度が多くの生徒の身に付くよう、できる限り平易な例示による明解な説明とした。
- 2 学習者の立場に立って、論理的な飛躍がないよう、基礎的な内容から応用的な内容まで、順を追って段階的に説明した。応用的な内容を取り上げる際にも、より平易な計算になるように配慮した。
- 3 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の習得とともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用することができるよう、章扉やコラム、課題学習等の内容も生徒が興味をもてるような題材にした。
- 4 内容の理解の定着のため、図版やレイアウトなど視覚面での工夫を心がけた。

### 2 教科書の特色

- 1 基本的な概念や原理・法則について体系的な理解を深めることができるよう、中学校との接続ならびに各学習事項の体系にギャップが生じないよう十分な配慮をした。
- 2 用語・記号の定義や本文の説明は、単純平明で理解しやすいものを心がけた。例や例題はできる限り基本的な内容に絞り、理解が容易になるようにした。また、側注や脚注に補足的な説明や式を充実させ、理解の助けとなるよう工夫した。
- 3 図版を多用したり、レイアウトを工夫したりして、視覚的な面で理解の助けになるようにした。また、生徒が親しみをもって学習できるよう、色刷りの図版を豊富に使うなどして、生徒の感性に近づける工夫をした。
- 4 数学的論拠に基づいて判断する態度が育つよう数学的な厳密さにも配慮した。また、本文の説明や展開における表現・表記の不統一を排除し、例題や応用例題の解答も論理的飛躍が生じないよう配慮した。
- 5 知識や技能の習得だけに偏ることを避け、数学の良さを認識し、それらを積極的に活用することができるよう、とくに課題学習の内容は生徒が興味をもって取り組める題材にした。
- 6 余力のある生徒のため、高等学校学習指導要領における数学 A の範囲を超えた内容のうち適切と思われるものを、発展で扱うようにした。
- 7 色覚の個人差を問わず多くの人が見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮した。また、本文の和文書体として、多くの人が見やすく読みまちがえにくいデザインの文字（ユニバーサルデザインフォント）を用いた。

### 3 教科書の構成要素

- [章 扉] その章の内容に関連する日常の事象や数学者などを紹介している。
- [ 例 ] 本文の内容を理解するための導入例や計算例である。
- [例 題] 学習した内容を利用して解決する重要で代表的な問題である。「解答」や「証明」では模範解答の一例を示した。必要に応じて「証明」の前に、問題を解くためのポイントを「考え方」として載せた。
- [応用例題] やや発展的な問題である。「解答」の前に、問題を解くためのポイントを「考え方」として載せた。
- [練 習] 例、例題、応用例題などの内容を確実に身に付けるための練習問題である。
- [深 め る] 見方を変えてみるなど、内容の理解を深めるための問題である。ページの下に掲載している。
- [問 題] 各節の終わりにある。節で学んだ内容を身に付けるための問題である。その節で学んだ内容の復習問題には、本文の関連するページを示した。また、本文で学習した内容を活用して解決できる問題も掲載した。
- [章末問題] 各章の終わりにあり、A、B に分かれている。  
A：その章で学習した内容全体の復習問題である。  
B：総合的な復習問題や応用的でやや程度の高い問題である。B 問題には、必要に応じてヒントを付けた。
- [研 究] 本文の内容に関連するやや程度の高い内容である。場合によっては省略して進むこともできる。問題や章末問題で研究に関する内容を扱う場合は、 を付した。
- [発 展] 数学の学力が高い生徒の興味・関心を惹くため、高等学校学習指導要領における数学Aの範囲を超えた内容を取り上げた。
- [コ ラ ム] 本文では扱うことのできなかつた内容や日常の事象に関連する内容などを課題とともに取り上げ、数学のよさがわかるような内容としている。以下の4つの内容がある。
- ・Discover (発見)
  - ・Think (考える)
  - ・Event (身近な事象)
  - ・History (数学史)
- [総合問題] 思考力・判断力・表現力を問う総合的な問題である。章ごとの題材を用意しているため、各章の内容の総仕上げとしても利用できる。
- [課題学習] 本文の内容に関連する興味深い事柄について、学習者が主体的に取り組めるいくつかの課題とともに取り上げた。
- [身に付けたい表現] 答案を書く、自分の考えを話すといった際に、身に付けておくとよい表現のうち、本文で説明できなかつたものについて、本文から参照を入れ、巻末において詳しく説明した。

#### 4 各章において配慮した点

##### 第1章 場合の数と確率 場合の数／確率

章全体として解説図や側注を多用して、本文や計算式についての理解が容易になるよう工夫した。また、例えば“決められた人数に組分けする問題”など、やや発展的な問題では「解答」の前の「考え方」で丁寧な解説をすることで、無理なく取り組めるようにした。なお、本章の学習において必須の“集合”は数学Iで学ぶ内容であるが、本章を学習するのに必要な事柄については、巻頭に準備として載せた。

##### 第2章 図形の性質 平面図形／空間図形

取り上げる定理や証明問題は基本的なものに限定した。更に、例題や練習には証明問題以外に値を求めさせる問題も多く載せるよう配慮した。証明に必要となる基本的な定理については、中学校における既習事項であっても、確認のために取り上げるようにした。また、解説図や問題図はできる限り載せて、視覚的にも理解しやすいようにした。三角形の性質については、取り組みやすい“三角形の辺の比”から始める展開にし、“三角形の辺と角”は後半で研究として取り上げた。

##### 第3章 数学と人間の活動

各項目の導入では日常生活との関連や和算など数学史との関連を取り上げ、また、写真や図なども多く掲載し、数学が活かされている場面が身近に感じられるようにした。その上で、特に整数の性質については、数学的な性質もしっかりと学習できるよう配慮した。また、例や練習などで扱う問題の数値は計算が平易なものとなるようにした。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率	(2) 場合の数と確率 ア(ア)(イ), イ(ア) ア(ウ)(エ)(オ), イ(イ)(ウ), 内容の取扱い(2)	13～72ページ	37
第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	(1) 図形の性質 ア(ア)(イ), イ(ア)(イ) ア(ウ), イ(ア)(イ)	73～124ページ	29
第3章 数学と人間の活動	(3) 数学と人間の活動 ア(ア)(イ), イ(ア)(イ) 内容の取扱い(3)(4)	125～169ページ	24
		計	90



# 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-153	高等学校	数学	数学 A	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104数研	数 A 713	高等学校 数学A		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
166, 167	補足 合同式	1	(3) 数学と人間の活動 イ(ア)	2
合 計				2

(「類型」欄の分類について)

- 1 …学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2 …学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容